
嫌いな相手

羅針

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
嫌いな相手

【Nコード】
N3014Z

【作者名】
羅針

【あらすじ】
基本女性視点です ハッピーエンドではありません
作者は少し泣きそうになりました。

嫌い、苦手、近づくな！、さよなら
好き、得意、一緒にいよう、ただいま

二人はそんな言葉を紡ぐ。

「ただいま。」 よみぎき けんし 黄泉崎絹糸は言った

「来るな」 しまさき としみ 島崎利美は返答した

「そこまで嫌うなよ」

ニコニコと抱きついてくる

「近づくな」

拒絶される

「何で嫌いなのです？」

一言質問する

「馴れ馴れしいところ」

「いーじゃん 恋人なんだから、さ」

「承諾した覚えはない」

ドンッと押される 後ろの布団に落ちる

「でも部屋には入れてくれる」

「し……知らない仲ではないから」

布団でごろごろと私の漫画を読む黄泉崎。

「本心は好きなんじゃないの？」

壁際でおろおろしている利美。

「一回 死ぬ？」

笑顔で壁にかかった木刀を取る

「ちょ、たんま」

そのまま意識を失った。

意識を戻すと部屋は暗く隣ですうすうと寝ている利美を発見

「好きだよ」

そう言っって唇を奪って寝る

ま、接吻は何度もしたことがある。

「んう」

寝返りを打つ

寝ているときでも拒絶するのか。

本心は知っている。

でも拒絶する 何でだろう？

俺はまた睡魔に意識を差し出した。

起きる 隣で幸せそうにぐうぐう寝息を立てて寝ている黄泉崎。

こっちを見て、笑顔だ 起きてるのではなからうか？

置時計を見る、8..20

起き上がるうか。

今日はピクニックに行こうと誘われてる。

本心は行きたいのに拒否してしまう。何でだろう？

弁当を作る。 おきてくる

時間は10..20

「おはよお」

「……」

何か言いたいのに出てこない

「あらあら？ 無視く？」

「早く座りなさい。」

「はーい」

朝ごはんを出す

んまいとぱくぱく食べる。うれしくなって見とれる

利美は料理が上手だ。

トーストにサラダ、オレンジジュース

すべて手作り。

イヤだ、来るなど言ってもオレンジジュースまで手作りしてくれるんだ、

想ってくれてると思う。

「行こうか？」

「いやだ」

手を引っ張って連れて行く

留まろうとは思えないから本当はいやでは無いと思う。

いやと言ってもしつかり連れ出してくれる、黄泉崎。

明るくて爽やかな風の吹く草原にたどり着いた

月一で来ている所だ。

「んまゝい」

ニコニコと食べている黄泉崎。

「そう？」　　と言いたいの言葉がつかえる。

「好きだよ？」

試すような眼でこちらを見つめる。

私も、好き！　言いたいのに恥ずかしくて出て行かない
クスクスと笑って私の料理を食べていく

私の分を残して全部平らげた。

「ほら食べないの？　あーん」

ぴし！　と指で跳ね飛ばす

「そこまでしなくても……」

しゅんとまるまる黄泉崎。かわいい

あーんで食べさせようとしたらデコピンで真上に飛ばされた。

「そこまでしなくても……」

これまで出てこなかった言葉が初めて出てきた

パクパクと弁当を食べていく利美、かわいいなあ……

帰り道、

「弁当もつよ」

そつと手から弁当を取ると反対の手に弁当を回し

利美から弁当をとりあげた、手を握る

「……っ！」

「へへー♪」

真っ赤になってる　すげえかわいい

そのまま交差点をわたる

「恥ずかしいよう」

そう言ってこっちを見上げる。

背は、もちろん俺のほうが高い。

「！」

キキィっとトラックが進んでくる

身の危険を感じた　利美だけは！利美だけは守らないと！

トラックが直進したきた。　信号は確かに青なのに

「利美！」

叫んでドンと押された。

後ろを振り向くと苦笑いでこっちをみる

そのまま――

ドガッ！

あの日から3週間、私は立ち直れずに部屋に籠っていた

私を助けてくれた。自分を犠牲にして。

病院に運ばれたけど1時間もしないうちに心電図がピーと鳴り響いた崩れ落ちた。すべてが無くなった気がした。

恥ずかしくて拒絶していた頃の自分が悔やまれる。

言いたいことも言わずに逝ってしまった

もう……会えない……大好きな人。

わたしを庇って守って、わたしの気持ちも言わずに逝ってしまった。

ずるいよ……ずるいよ

「好き」

やっと出たその一言。聞こえてるよね……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3014z/>

嫌いな相手

2011年12月10日18時51分発行